

平成27年度教育事業「第36期はなやまボランティアスクール」

1 趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行うとともに体験活動の指導者や支援者としての技術とボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

2 目標

- 青少年教育施設におけるボランティアの役割とボランティア活動について理解する。
- 自然体験活動の指導方法や救命救急法と安全管理などボランティアとしてすぐに生かせる知識や技術を習得する。
- 参加者や先輩ボランティアとのふれあいを通して、ボランティアとしての意欲を高め、研修終了後ボランティアとして活動する。

3 主催

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成27年5月9日（土）～5月10日（日）【1泊2日】

5 場所

国立花山青少年自然の家 及び 施設周辺フィールド

6 参加対象と募集人数

高校生以上のボランティア活動を志す方（一般成人・学生・高校生） 30名

7 参加状況

	宮城県		山形県		合計
	男	女	男	女	
高校生	3	11	0	0	14
大学生	6	16	4	0	26
一般	7	3	2	0	12
合計	16	30	6	0	52

（申込み総数 52名 キャンセル6名 参加者総計 46名）

【参加者の主な所属先】

- ・宮城県塩釜高等学校
- ・仙台市立仙台商業高等学校
- ・宮城県白石高等学校
- ・宮城県泉松陵高等学校
- ・東北生活文化大学高等学校
- ・東北福祉大学
- ・山形県立産業技術短期大学校
- ・東北学院大学
- ・泉岳自然ふれあい館
- ・美里町子ども家庭課 他

8 日程

	5月9日(土)	5月10日(日)
午前	受付 9:10 開講式 9:50 <講義Ⅰ> 10:10～11:40 「青少年教育の理解」 [講師] 昭和女子大学 特任教授 興梠 寛 氏 <ボランティア登録について> 11:50～12:30 ・ボランティア登録の説明 ・登録用紙、調査票の記入の仕方	朝のつどい 7:15～7:30 <講義・演習Ⅱ> 9:00～12:00 「救命救急法Ⅰ」 [講師] 栗原市消防本部警防課警防係 主査 川村 弘司 消防副士長 千葉 宇宙 消防副士長 佐藤 彩 栗原消防署西出張所 消防士長 尾形 重信 消防士 佐藤 有紗
午後	<講義Ⅱ> 13:40～15:10 「ボランティア活動の意義」 [講師] 昭和女子大学 特任教授 興梠 寛 氏 <説明Ⅰ> 15:20～16:20 「青少年教育施設における ボランティア活動の理解」 [講師] 昭和女子大学 特任教授 興梠 寛 氏	<講義Ⅲ> 13:00～14:20 「青少年教育施設の現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 次長 熊木 邦夫 ボラ 小林 静香 <登録用紙、アンケートの記入・回収> 14:30～15:00 <修了証授与・閉講式> 15:00～15:20
夜	[講義・演習Ⅰ] 17:00～21:00 HABプログラム体験 「野外炊事の基本」 (安全に配慮した野外炊事) [演習指導] 国立花山青少年自然の家 職員	

9 実施状況

(1) 企画のポイント

- ・教育事業参加者への支援を主な目的としたボランティア育成を図るため、高等学校や短期大学、大学等へ参加を積極的に呼びかけた。特に大学生の参加者を増やすため、大学のボランティア担当者、大学職員と連絡をとり、講義の時間を一部いただき、直接学生に対して事業の内容やボランティアスクールの趣旨を伝えた。
- ・大学生が社会教育主事取得のための実習や、講義の一環として当所の事業に参加できるように、大学等と連携していくことを継続して進めた。
- ・ボランティアとして活動するために必要な知識や技能を習得するプログラムの内容を構成した。演習では野外炊事を取り入れ、主催事業で即戦力として活躍していただけるようなプログラム構成とした。

(2) 運営のポイント

- ・昭和女子大学より興柁寛氏を講師に招き、講義をしていただいた。講義では、自身がこれまで行ってきたボランティア活動の経験を基に、ボランティアの基礎の部分を中心に講義いただいた。また、救命救急法では栗原市消防本部警防課に講師を依頼し、野外活動時における緊急時に備えてAED（自動体外式除細動器）の使い方や心肺蘇生法などの実技を行った。
- ・本年度も昨年度に引き続き、1泊2日の日程で行った。参加者にプログラム内容を詰め込みすぎないように、休憩を適宜入れるようゆとりをもった計画とした。

(3) 安全管理のポイント

- ・食事の前の時間を利用して体調チェックを行い、体調や健康管理に努めた。

(4) 実施状況

【1日目】 <開講式>



宮田所長からの主催者代表あいさつ
<講義Ⅰ> 「青少年教育の理解」



講師の昭和女子大学教授 興柁寛先生



自己紹介を兼ねてアイスブレイク
<講義Ⅱ> 「ボランティア活動の意義」



参加した理由等の内容で話し合いを展開



<説明 I> 「青少年教育施設におけるボランティア活動」



自身の経験に基づいた講義



講師の問いかけに回答する受講生

[講義・演習 I] HAB体験プログラム「安全に配慮した野外炊事」



安全について確認し、活動に取り組む



手順や分担について相談後、班毎に活動へ



【2日目】



7:15 からの朝のつどいに参加



司会と旗の掲揚係を自分たちで分担

〔講義・演習Ⅱ〕救命救急法



心肺蘇生法、AEDについての指導



参加者による心肺蘇生訓練



スキルアップのため真剣に参加
＜講義Ⅲ＞「青少年教育施設の現状と運営」



不明な点は積極的に質問



熊木次長による講義の様子

◇修了証授与・閉講式



施設利用の現状について講義を受ける



熊木次長から参加者代表へ修了証の授与



参加者には事業での活躍が期待される

10 成果と課題

(1) アンケートの結果

①参加者の満足度（アンケート回収率 100.0%）

単位：%

設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
事業全体をとおしてはどうでしたか。	71.9	23.9	4.2	0.0
事業のプログラムはどうでしたか。	67.5	30.4	2.1	0.0
事業の運営はどうでしたか。	71.9	23.9	4.2	0.0
職員の指導・助言はどうでしたか。	67.5	30.4	2.1	0.0
ボラの指導・助言はどうでしたか。	66.6	31.3	0.0	2.1

参加者46名に対して事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。5つの項目全てにおいて、「満足」「やや満足」が高い割合を占めた。やや不満の回答については、講義だけでなく施設周辺のフィールドを活かした自然体験を行いたいという要望であった。1泊2日のプログラムとしては限られた内容になるが、参加者の満足度の結果からこの事業は概ね好評であったと考える。

②自由記述

- ボランティアとは何かと疑問に思っていましたが、基本から教えていただき、楽しく学ぶことができました。今後の道標が見えてきました。
- 1泊2日という短い期間でしたが、大学の講師の先生の大変学びになる講義や、救急救命講習などを受けることができ、とても満足しています。これからもボランティアとしてお世話になると思います。よろしくお願いします。
- 講義を受けるだけでなく、グループワークをしたり、人との交流の場が多く設けられていたりして楽しかった。
- スケジュールは立て込んでいたが、個人的には1泊2日がベストだと思う。
- 話し合い活動のときに、いろいろな年代の方と楽しく交流ができてよかった。
- とても良い経験ができ、自分のためになりました。ありがとうございました。
- 職員の方の助言、誘導にぐっときました。
- ボランティアについての考えを深めることができた。様々な活動があることを知り、参加してみたいと思った。講義が多く、交流の機会が少ないと思ったので、アイスブレイキングを兼ねたレクリエーションがもう少しあっても良いのではないかと思った。1泊2日間ありがとうございました。
- スケジュールを見たとき、あまり他の人と交流する機会が少ないかなと思ったけど、野外炊事、救命講習で交流できて、良い時間になりました。
- 本当に参加して勉強になる良い場でよかったです。また参加したいです。
- 素晴らしい講義に心を打たれ、私の中のボランティアの概念が大きく変わりました。また職員さんの対応にも感謝しています。ボランティアスクールに参加して本当に良かったです。
- 一般成人の参加が少ないので残念でした。
- 野外活動を増やしてほしい。

(2) 成果

- 参加者の募集期間を4月上旬～中旬とした。その期間に並行して大学の講義の中で広報を行ったところその効果があった。足で稼ぐ広報の大切さを実感した。
- 募集人数を30名とし、参加者を募った。高校生を含め幅広い年代の参加者を集めることに成功した。また定員を大幅に超える参加者を集めることができた。
- 今年度初めて、花山・岩手山・磐梯・那須甲子の4施設合同の参加者募集パンフレットを作成し、広報をかけた結果、山形県からの参加者が増えた。
- プログラムを精査し1泊2日の日程で実施した。講義の時間が続く形であったが、参加者の満足度は高かった。スタッフの分掌や連絡体制、活動プログラムの内容については、1泊2日のプログラムとして適正だったと考える。
- ホワイトボードの活用やインフォメーションをタイムリーに入れることで参加者の混乱を招くことなくスムーズな運営ができた。

(3) 課題

- 4施設合同パンフレットの発送を、4施設で3月31日と定め一斉配付としたが、花山の開催時期が早い時期だったこともあり、募集期間が実質3週間で短かった。来年度は、チラシの発送をもう少し早めに設定したい。
- 当施設主催の教育事業では、「沢活動」が入ってくるが、今回の時期の開催であると、沢の研修は不可能である。夏場に「ボランティアのための沢講習会(仮称)」を設定し、即戦力として活躍できるボランティアの育成を図っていきたい。
- 1泊2日のタイトな日程ではあるが、施設の周辺フィールドを使ったオリエンテーリングやキャンプファイヤーなどを講義・演習の4時間の中に組み込み、可能な限り参加者の要望に答えていきたい。

